

はじめての万葉集

日本に現存する最古の和歌集「万葉集」を
分かりやすくご紹介します

vol.149

あすかは
明日香川
かとは
川門を清み
おく
後れ居て
こ
恋ふれば京
みやこ
い
や遠そきぬ
とほ

中臣清麻呂 卷十九(四二五八番歌)

訳

明日香川の渡瀬が清らかなので留
まっていて、人々を恋い慕うと、都は
一層遠く思われるよ。

明日香川と古京

本歌は四二五七番歌題詞によると、十月二十二日に左大弁紀
飯麻呂邸で詠まれた三首のうちの一首です。年は四二九番歌
題詞に「天平勝宝三年」(七五二)とあり、本歌とともに年代ご
とにまとめられていることから、同一年と考えられます。

ただし、飯麻呂が左大弁であることを確認できるのは天平
宝字二年(七五八)八月甲子(二十五日)(前年八月に右大弁
任官)です。また、本歌の左注では清麻呂を左中弁としますが、
左中弁に任官されたのは天平勝宝六年七月乙卯(九日)です
(いずれも『続日本紀』)。よって、題詞と左注の作成時の官職
を遡らせたと推測されます。これらの時間のずれが、『万葉集』
の編纂を考える糸口となります。

また、時間に関して、本歌左注には清麻呂が伝誦した「古京
時歌」とありますが、その解釈も難解です。「古京」が指す京
は、飛鳥京と藤原京で説がほぼ二分されています。

ここでは、清麻呂の立場から考えてみます。清麻呂の誕生は
大宝二年(七〇二)、死去は延暦七年(七八八)です。藤原京で
生まれ、その後の人生の大半を平城京で過ごしたのです。清麻呂
にとつての「古京」とは、まず藤原京が想起されるのではないで
しょうか。ただし、四二五七番歌は、恭仁京の時の歌とあり、本
歌の「古京」を恭仁京(七四〇～七四四)と解釈することも可能
です。一方、本歌は伝誦歌で、清麻呂自身の作ではありません。
左注も清麻呂が記載したものではありません。とすると、「古
京」を清麻呂と積極的に結びつける必然性は薄くなります。

また、四二五七番歌は時期を明記しますが、本歌が明記し
ない理由も不詳とせざるをえません。あえて、時期を明記しな
かった(できなかった)のかもしれない。

(本文 万葉文化館 中本和)

万葉文化館イベント情報

開館25周年記念/世界文化遺産登録記念 特別展
高照らすみやこ

「描かれた「飛鳥・藤原の宮都」」
10月17日(土)～12月6日(日)

「飛鳥・藤原の宮都」は近現代の画家たちにも
多くのインスピレーションを与えてきまし
た。飛鳥時代の人々や都の風景、そして現在
にのこる遺跡、それらを描いた作品を紹介
し、画家の目から見た「飛鳥・藤原の宮都」
の歴史を探ります。

※国内の小・中学生、
高校生・18歳未満の
人は無料。その他割引
など、詳しくは当館
HPをご覧ください。



折井宏光 「想 石舞台」1988年
奈良県立万葉文化館蔵

開館25周年記念

万葉古代学特別講座 無料・申込不要

10月31日(土) 14時～17時(13時30分開場)

「定員」150人(先着)「会場」企画展示室

●万葉歌と飛鳥・藤原の宮都

「講師」井上さやか(当館企画・研究係長)

●「万葉集」における聖武天皇の宮

「講師」榎戸涉吾(当館研究員)

●平安京神泉苑の役割

「講師」中本和(当館主任研究員)

※アーカイブ配信(翌日から1週間視聴可)

万葉集をよむ 無料・申込不要

10月21日(水) 14時～15時30分

「雑歌(7)」(巻9:1744～1752番歌)

「講師」井上さやか

(当館企画・研究係長)

※アーカイブ配信(翌日から1週間視聴可)

にぎわいフェスタ万葉秋

開催中/11月29日(日)

※8月1日より、当館駐車場は有料
になりました。
普通車1日1回につき500円
※詳しくは当館HPをご覧ください。



奈良県立万葉文化館
☎ 0744-54-1850
🌐 www.pref.nara.lg.jp/manyo